

教材名

【東書】和の文化を受けつぐ
—和菓子さぐる—
【光村】グラフや表を用いて書く

組

番

氏名

2

岩田さんの学級では、生活の中で気になったことについて調べています。岩田さんは、プラスチックごみの問題について調べ、ごみを減らすための行動について学級の友達に提案することになりました。次は、岩田さんが書いている文章の【下書き①】と【下書き②】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【下書き①】

提案します わたしたちにできる「プラスチックの3 R週間」

■ 知っていますか プラスチックごみの問題

わたしたちの周りには多くのプラスチック製品があります。例えば、ペットボトル、ストロー、レジぶくろなどです。プラスチック製品のおかげで、わたしたちは便利な生活を送ることができています。

しかし、これらのプラスチック製品がごみになると、大きな問題になります。最近の新聞には、海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からペットボトルなどが発見されたという記事や、森のサルがプラスチックごみを食べてしまったという記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深くなえいきょうをあたえていることにアヒじょうにおどろきました。かん境省のホームページによると、世界のプラスチック容器の生産量は、1964年は1500万トンだったのが、2014年には3億1100万トンになっているそうです。以前に比べて増えていることが分かります。

プラスチックは時間がたつと分解されてなくなるだろうと考えている人がいるかもしれません。けれども、

■ みんなで減らそう プラスチックごみ

わたしは、便利だからといってプラスチックを当たり前のように使うという考えをイあらため、プラスチックごみを減らすためにできることをしたいと思いました。そこで、わたしたちにできる「プラスチックの3 R週間」を提案します。3 Rとは、ごみそのものを減らすリデュース (Reduce)、くり返し使うリユース (Reuse)、ごみを資げんに変え、再び利用するリサイクル (Recycle) のことです。

わたしたち一人一人の力はとても小さいかもしれませんが、しかし、その力が積み重なれば大きなものになります。

A 大切なことは、行動することが大切だと思います。

【下書き②】

■ やってみよう プラスチックの3 R

家の人といっしょに、まずは1週間、プラスチックごみを減らすことに取り組んでみませんか。実行できたら□の中に印を入れ、どのくらい実行できているのかをアたしかめましょう。他にも具体的な行動が見つかったら、書き加えて実行してみましょう。

プラスチックの3 R週間 チャレンジ表

3 R	具体的な行動
減らそう	☐ バッグを持参し、レジぶくろをもらわない ☐ ふたつき容器を使い、ラップの使用を減らす ☐ コップから飲み、ストローを使わない
リデュース (Reduce)	☐ 水とうを持ち、ペットボトルを買う回数を減らす ☐ ☐
くり返し使おう	☐ シャンプーは詰めかえ用を買い、容器をくり返し使う ☐ 液体石けんは詰めかえ用を買い、容器をくり返し使う ☐ ☐
リユース (Reuse)	
資げんに変えよう	☐ ペットボトルをあらい、せん用の場所にすてる ☐ 食品用のトレイをあらい、せん用の場所にすてる ☐ ☐
リサイクル (Recycle)	

三 岩田さんは、どのような目的で【下書き①】に続けて【下書き②】の「プラスチックの3 R週間チャレンジ表」を書いていきますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 3 Rの中で、どのような行動をしている人が多いのかを明らかにするため。

2 3 Rをもとにして、学級のみんなが取り組んだことを紹介するため。

3 3 Rを家族で分担し、自分の役割を明確にしてもらうため。

4 3 Rを意識して、自分ができることを考え実行してもらうため。

教材名

【東書】和の文化を受けつぐ
―和菓子をさぐる―
【光村】グラフや表を用いて書こう

組

番

氏名

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することになりました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある【報告する文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



公衆電話について

1 はじめに 高橋 めぐみ

先日外出したときに、家に電話をかけようと近くの店に行くと、あつたはずの公衆電話がなくなっていて、こまづいてしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間になくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思い、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが【資料1】です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。

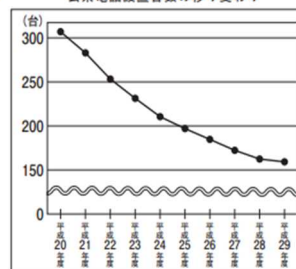
2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか
多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。そこで、地いきの人三十人を調査の「アたいしう」として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが【資料2】です。「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

【資料2】
公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電液がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

【資料1】
公衆電話設置台数の移り変わり



(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか
公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や持ちようがありました。
・警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができ。る。
・停電のときでも、硬貨を使って通話することができ。る。
・電話が混み合っているときでも、優先的につながらりやすい。
このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

【資料3】
公衆電話の設置場所を示した地図



3 調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかとことも考えました。今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にイがざらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

高橋さんは、【報告する文章】で【資料2】と【資料3】を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までのの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
- 2 内容ごとに分類して示し、大まかな持ちようを伝えるため。
- 3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
- 4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
- 5 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

【資料2】

2

【資料3】

4

正答率:71.3%

